

## 太平洋島しょ国学生さんとの オンラインミーティングを開催

8月27日、公益社団法人青年海外協力協会からの依頼で、太平洋島しょ国の大学生や大学院生とZOOMによるオンラインミーティングを開催いたしました。参加された学生さんの国は、フィジー、バヌアツ、ソロモン、サモア、パプアニューギニア、キリバス、トンガの7ヶ国でした。オーストラリアの東側で、南半球にあります。

我国の外務省が実施している「対日理解促進交流プログラム」で、今回は「防災」がテーマだったそ



うです。オンライン学習・交流は、1コース当たり2時間が2回で、その内1回目が「稲むらの火の館」からの津波防災の話で、次回は東京の直下型地震の話題だそうです。(写真は、フィジーのルシアナ・ララバラブさんです。)

太平洋島しょ国からの参加で、日本とは結構昔から交流がある親日の国ですが、やはり南半球ですから気候や環境は大きく違うでしょう。日本の情報もあまり知られていないようです。オンライン交流をする前に、情報収集をしましたが、小泉八雲についてもあまり知られていないとのことでした。しかし、これらの国と我が「稲むらの火の館」との関係調べてみますと何回も来館されていることが分かりました。特に「世界津波の日」制定以来、国連ユニタールの女性防災研修や2019年の「世界津波の日高校生サミット」和歌山県主催のアジア・オセアニア高校生サミット等、本当に遠い国から来られています。なじみがないように思いますが、何度も来館されているのは嬉しいことです。

## 濱口梧陵偉業顕彰シンポジウム

### パブリックビューイング

11月5日、和歌山市の和歌山県民文化会館で「濱口梧陵偉業顕彰シンポジウム『現代に生きる梧陵の精神』」が開催されます。

通常、このようなシンポジウムは直接会場へ行かなければ聞くことができません。会場でもこのコロナ禍の時代ですから、大勢の観衆を集めることも出来ない状態です。

そのため今回のシンポジウムはパブリックビューイングとして「稲むらの火の館」でも参加することができることになりました。つまり、「館」の3階ガイダンスルームでオンラインによる映像で講演会に参加できる訳です。

下記の要領で開催されますので、ご案内いたします。

- 1、日時 令和3年11月5日 13:00～16:00
- 2、場所 稲むらの火の館3階
- 3、シンポジウム内容

<テーマ>現代(いま)に生きる梧陵の精神

<講演 1>

中江 有里(なかえ ゆり)先生  
女優・作家・歌手

【講演テーマ】歴史から見える、未来の道

<講演 2>

河田 恵昭(かわた よしあき)先生  
人と防災未来センター長  
関西大学社会安全研究センター長

【講演テーマ】濱口梧陵を世界の英雄にする

- <事例発表>
- 1、和歌山県立耐久高等学校
  - 2、国連ユニタール(国連訓練調査研究所)

パブリックビューイング会場(稲むらの火の館3階)の定員は60名です。参加希望者は、稲むらの火の館(電話 0737-64-1760)へお申し込みください。お問合わせも当館へ。尚、「稲むらの火の館」当日の入館料は無料です

# 百世安堵

関西大学社会安全学部 近藤誠司

## 第7回 警戒レベル0が大事

防災気象情報をもとにして「警戒レベル」が数値で発出されるようになっていきます。あらためて復習しておきますと、レベル1が「早期注意情報」、レベル2が「大雨・洪水・高潮注意報」で、これらはいずれも気象庁のみが発表しています。

レベル3は「高齢者等避難」、避難に時間がかかるかたやその援助者は避難行動を開始します。レベル4は「避難指示」。この段階で該当者は皆、避難します。レベル5は「緊急安全確保」。すでに被害が発生し始めていると予想されるくらい危機が切迫していることを示します。

さて、こうした情報を受け取る際に、ポイントになることが3つあります。1つ目は、情報が「レベル化」されているけれども、順番に段階をふむとは限らないということ。「いきなりレベル4」という事態もありえます。次に2つ目は、自分が当事者でなくても、情報を生かすこと。たとえば、「熊本でレベル4」とか「広島でレベル5」などの情報が出た際に、「和歌山は関係ない」と受け流すのではなくて、「いずれ関西も当事者になるかも」と想像したり、「熊本の親戚や広島の知り合いに避難を呼びかけよう」とメッセージを送ったり、常に我が身に引き寄せて考えてみるのが大勢の命を救うことにつながります。

そして、さいごにポイントの3つ目として、「警戒レベル0が大事」だということをおさえておいてください。「レベル0」という言葉はわたしの造語です。これはすなわち「普段」のことを言い表しています。情報のアンテナを広げ、防災気象情報に対する感受性を平素から磨いておくことで、いざというとき、迅速・的確に判断して行動に移すことができます。日常生活のなかで思考のトレーニングをしておくというふうに言い換えることもできるでしょう。普段の積み重ねこそが災害時には「実力」となって現れるのです。

## <先月号(9月号)>の訂正について

先月号(9月号)で、『「濱口梧陵文庫」について』と題して掲載させていただきました。

その内容に誤りがありましたので、訂正と内容説明を追加させていただきます。

### 1、訂正

「梧陵文庫」は西濱口家から、和歌山県立図書館へ寄贈されました。

『「梧陵按」という字があって』としていましたが「成則按」の間違いです。

### 2、内容説明

ご承知の通り、「成則」は梧陵翁の別名とってよいと思います。「梧陵翁」には名前がいくつもありますね。「儀兵衛」はヤマサ濱口家の当主の名前で、初代から11代まで襲名され、「梧陵」は7代目です。その「梧陵」は雅号です。「通信大臣列伝」(社団法人通信研究会発行)という本では「成則」という名前が使われています。

「梧陵文庫」の書籍の書き込みは、「成則按」となっているということで、「成則」が考え(或いは調べ)ますところぐらいの意味と考えられます。

なお、このことを掲載された「和歌山県立文書館紀要」第23号は「稲むらの火の館」に置いていますので、ご覧いただく事が出来ます。

#### <稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館/津波防災教育センター

〒643-0071 住所 和歌山県有田郡広川町広 671

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>

\*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

\*休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

(世界津波の日の11月5日は開館)

年末年始(12/29～1/4)

\*記念館だけの入場は無料です

\*また、6月15日と11月5日は無料です